

人文科学研究科 3つのポリシー (2024年度生用)

人文科学研究科は、心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野における専門的な研究・教育を通して、優れた研究者と高度な知識と技能を備えた社会人の養成を目的としています。この目的を達成するため、次の3つの教育方針を定めます。

I. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程および修士課程

人文科学研究科は、博士前期課程および修士課程においては以下の学位授与方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、修士論文または特定課題研究論文の審査および最終試験に合格した場合に、修士(心理学、社会学、教育学、文学)の学位を与えます。

1. 心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野における高度な知識と技能を備え、自らの発想力と探究心をもって研究を遂行する能力を有すること。
2. 専攻分野における高度な知識と技能を生かし専門的職業人として自立しうる能力を有すること。
3. 激しい社会的変動の中で人文諸科学への広い関心と視野をもって問題に対処し、解決する能力を有すること。
4. 鋭い国際感覚と広い視野をもって時代と社会の諸問題を考え、かつ地域社会に貢献する意欲と能力を有すること。

博士後期課程

人文科学研究科は、心理学専攻および英文学専攻における博士後期課程においては以下の学位授与方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格した場合に、博士(心理学、文学)の学位を与えます。

1. 心理学および英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において高度かつ専門的な知識を修め研究者として主体的かつ独創的な研究を行なう能力を有すること。
2. 専門的職業人に求められる高度な学識と思考力および技能を備えていること。
3. 人文諸科学に関する広い知識と柔軟な思考力をもって社会的諸問題に対処し、解決する能力を有すること。

II. 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程および修士課程

人文科学研究科は、本研究科の定める修士の学位授与の方針を実現するために、博士前期課程および修士課程における教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学に関する専門的な知識を与え主体的な研究態度を養うため豊富かつ系統的な授業科目を設置する。
2. 上記の各分野において自由かつ系統的な研究・教育を可能とする個人的指導体制を確立する。
3. 心理学専攻、社会学専攻においては、専攻分野の研究課題を主体的に探究・解決し論文を作成する修士論文コースを設置する。教育学専攻、英文学専攻においては、修士論文コースに加え、専攻分野および関連分野を広く学び課題研究をまとめる課題研究コースの2コースを設置する。
4. 社会人が学びやすいように夜間開講に対応する。

博士後期課程

人文科学研究科は、本研究科の定める博士（心理学、文学）の学位授与の方針を実現するために、博士後期課程における教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 心理学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野における高度な知識の教授から論文作成まで一貫したきめ細かな指導体制を構築する。
2. 社会人が学びやすいように夜間開講に対応する。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程および修士課程

人文科学研究科は、博士前期課程および修士課程において、心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野を意欲的に研究する能力をもつ学生を広く国内外から受け入れるため、以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 人文科学研究科で学ぶために必要な学力を有し、心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野に深い関心をもち、主体的に学び研究する意欲のある人
- (2) 自ら問題意識をもって研究を行ない修士論文・特定課題研究論文を作成する意欲と意思を持つ人
- (3) 将来専門的職業人となるため専攻分野における高度な専門的知識と技能を修める意欲を持つ人
- (4) 専攻および関連分野の知識と見方を融合し、柔軟な思考力をもって地域社会および国際社会の一員として活動する意欲を持つ人

2. 入学試験制度と評価

人文科学研究科は、博士前期課程および修士課程において、上記の知識・能力および資質等

を有する学生を選抜するために、(1)一般入学試験、(2)学部生推薦入学試験、(3)外国人留学生入学試験、(4)社会人入学試験、(5)シニア特別入学試験(社会学専攻のみ)を実施します。選抜するための評価の比重および評価方法は、各専攻のアドミッション・ポリシーで明示します。

3. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科は、博士前期課程および修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、各専門分野における高度な知識と技能を土台として研究を遂行する能力、専門的職業人として自立しうる能力、現代社会の諸問題を解決する能力、そして国際感覚をふまえつつ地域社会に貢献する能力を涵養します。

博士後期課程

人文科学研究科は、博士後期課程において心理学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野の高度な知識を修め研究を行う意欲と能力のある学生を広く国内外から受け入れるため以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 心理学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、主体的な研究者として専門的な問題意識と研究課題を持ち研究を行おうとする人
- (2) 将来高度な知識と研究成果を生かし専門的な業務に従事することを希望する人

2. 入学試験制度と評価

人文科学研究科は、博士後期課程において、上記の知識・能力および資質等を有する学生を選抜するために、(1)一般入学試験、(2)外国人留学生入学試験を実施します。選抜するための評価の比重および評価方法は、各専攻のアドミッション・ポリシーで明示します。

3. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科は、博士後期課程の入学者に対して、心理学および英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、高度かつ専門的な知識を修め研究者として主体的かつ独創的な研究を行なう能力、専門的職業人に求められる高度の学識と思考力、そして社会的諸問題に対処し解決する能力を涵養します。

心理学専攻3つのポリシー（2024年度生用）

人文科学研究科心理学専攻では、人間行動の科学的探求についての教育を通して、専門領域と関連領域についての最新の知見をもつ研究者を養成すると共に、高度な専門知識を持ち心理学的発想で現代社会の諸問題を解決できる人材を養成することを目的として掲げています。この目的を達成するために、次の3つの教育方針を定めて教育研究活動を進めていきます。

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

人文科学研究科心理学専攻は、博士前期課程において以下の学位授与の方針にもとづき、臨床心理学領域、心理科学領域のいずれかの領域の所定の単位を修得し、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対して、修士（心理学）の学位を与えます。

1. 現代社会における人間のこころと行動に関する諸課題を実証科学的に分析し、客観的・論理的根拠を持って課題の解決をはかることができる能力
2. 心理学の高度な専門的学問知識に基づき、人間行動の理解を深める実証的研究、あるいは心理臨床の向上に資する実践的研究を遂行することができる能力
3. 心理学の高度な専門性を要する職業人として、あるいは地域社会や心理臨床現場の要請に対応できる心理臨床職業人として活躍できる資質と能力

博士後期課程

人文科学研究科心理学専攻は、博士後期課程においては以下の学位授与の方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格した場合に、博士（心理学）の学位を与えます。

1. 心理学の専門領域および関連領域に関する高度な専門的知識と技能に基づき心理学的視点で現代社会の諸課題を解決できる能力
2. 心理学の専門領域および関連領域において研究者として独創的な研究を自立して遂行することができる能力
3. 心理学の専門領域および関連領域に関係した高度な専門性を要する心理専門職業に必要な能力

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

人文科学研究科心理学専攻は、本専攻の定める修士の学位授与の方針を実現するために、博士前期課程における教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 基礎心理学と臨床心理学の融合を背景に、基礎心理学と臨床心理学の各専門領域に豊富な授業科目を担保し、心理学全般にわたる専門的知識と技能を習得するとともに実証的かつ実践的な研究を推進できる教育課程を編成する。
2. 人間のこころと行動に関する諸課題を実証科学的に分析し、客観的・論理的根拠を持って課題を解決するための技量を身につけることを目標として、心理学の各専門領域に関する講義と演習ならびに研究指導などの授業科目を配置する。
3. 臨床心理学領域においては、心理臨床の現場における実習および臨床心理相談センターでの研修を通して、心理臨床における実践的な能力を育成する。心理科学領域においては、専門学会での研究発表や学術雑誌への投稿に向けて、実験実習や実験研究においてきめ細やかな指導を行う。
4. 研究テーマに応じた必要性により、他専攻および他研究科で開講されている講義科目の履修を可能にする。

博士後期課程

人文科学研究科心理学専攻は、本専攻の定める博士の学位授与の方針を実現するために、博士後期課程における教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 心理学の各専門領域に特殊研究指導を開設して研究課題に応じたきめ細やかで一貫した研究指導を行う。
2. 指導教員以外が担当する心理学特殊研究特講を開設して他分野他領域への関心の幅を広げ学際性を養う。
3. 複数の教員による論文指導委員会を設置して独創的で優れた博士論文を完成できるよう支援する。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

人文科学研究科心理学専攻は、博士前期課程における学生の受け入れ方針を以下の通り定め、広く国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 人間のこころと行動に深い関心を持ち、主体的に研究活動や実践活動ができる人
- (2) 心理学に関する基礎的知識と技能を持ち、さらに心理学に関する高度な専門的知識と実践的技能を身につけたい人
- (3) 高度な専門的職業人として社会に貢献する強い意欲を持つ人

2. 入学試験制度と評価

博士前期課程では、下記の入学試験制度ごとに、上記の事項について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく知識および思考力等の評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：心理科学領域においては、本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。臨床心理学領域においては、本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に110単位以上の単位を修得し、かつ3年次終了時のGPAが3.0以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく知識および思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：小論文形式による個別学力試験に基づく知識および思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

3. 入学後に涵養する能力

心理学専攻博士前期課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、現代社会における人間のこころと行動に関する諸課題を実証科学的に分析し、客観的・論理的根拠を持って課題の解決をはかることができる能力を涵養し、心理学の高度な専門性を有する人材を養成します。

博士後期課程

人文科学研究科心理学専攻は博士後期課程における学生の受け入れ方針を以下の通り定め、広く国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 心理学領域および関連領域において、研究者として自立して研究活動を行おうとする人
- (2) 心理学領域および関連領域において、高度に専門的な業務に従事して実践的研究活動を行おうとする人

2. 入学試験制度と評価

博士後期課程では、下記の入学試験制度ごとに、上記の事項について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく知識および思考力等の評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく知識および思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

3. 入学後に涵養する能力

心理学専攻博士後期課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、心理学の専門領域および関連領域に関する高度な専門的知識と技能に基づき心理学的視点で現代社会の諸課題を解決できる能力を涵養し、独創的な研究を自立して遂行することができる研究者や高度な専門性を要する心理専門職業人を養成します。

社会学専攻3つのポリシー（2024年度生用）

人文科学研究科社会学専攻は、社会学の専攻分野における学術の理論および応用を教授研究し、高度の学識と専門能力を備えた人材を養成することを目的とする。この目的を達成するため、次の3つの方針を定めて教育活動を進めます。

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人文科学研究科社会学専攻は、修士課程において以下の学位授与方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、修士論文の審査および最終試験に合格した場合に、修士（社会学）の学位を与えます。

1. 現代社会に生起している諸問題・諸現象を理解するための専門的な知識と社会調査のスキルを修得し、自らの発想力と探求心をもって研究を遂行する能力を有すること。
2. 社会学の高度な専門知識とスキルを活かして、専門的職業人として自立できる能力を有すること。
3. 現代社会に対応する社会学的応用力を身につけ、社会の様々な分野で活躍する能力を有すること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人文科学研究科社会学専攻は、学位授与方針を実現するため、教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 社会学に関する専門分野の授業科目を設置するとともに、自由かつ系統的な研究を可能とするきめ細かな研究指導体制を構築する。
2. 主たる専門分野には各々「研究指導」「講義」「演習」「社会調査実習」の科目を配置し、研究テーマの設定から遂行まで一貫した指導体制を構築する。
3. 社会学という学問分野の特殊性に鑑みて、パターン化された履修モデルを設定せず、院生個々人の研究テーマにあわせて、履修すべき科目を設定する。
4. 研究テーマに応じた必要性により、他専攻および他研究科で開講されている講義科目の履修を可能にし、独創的な研究を遂行する教育指導体制を整える。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人文科学研究科社会学専攻は、大学卒業程度の学力を有し、社会学を学ぶ意欲と資質を持つ人を広く受け入れるため、学生の受け入れ方針を以下の通り定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 本研究科で学ぶために必要な学力を有し、社会学に深い関心と自主的に学び研究する意欲のある人

- (2) 自らの研究テーマや問題意識を鮮明に持つと同時に、「自己の社会的目標」を明確に描くことができる人
- (3) 社会学に関する専門的知識と課題解決能力を身につけ、専門職業人として社会で活躍することを希望する人
- (4) 複数分野の知識を融合し、複眼的な視点から思考できる能力を身につけ、地域社会の一員として活動することを希望する人

2. 入学試験制度と評価

社会学専攻では、下記の入学試験制度ごとに、上記の事項について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：国内の大学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (5) シニア特別入学試験：研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (6) 社会人入学試験・シニア特別入学試験の志願者には、社会生活において無理なく研究活動を遂行できるように、長期履修学生制度を選択可能とする。

3. 入学後に涵養する能力

社会学専攻修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、現代社会に生起している諸問題・諸現象を理解するための専門的な知識・スキルを修得しそれを実践する能力を涵養し、現代社会に対応する社会的応用力を身につけ、社会の様々な分野で活躍する能力を有する人材を養成します。

教育学専攻 3つのポリシー（2024年度生用）

人文科学研究科教育学専攻は「人間の発達と形成に関する高度な研究と教育の機会を提供することを通して教育に関する専門的知識と実践的能力をもつ人材を養成すること」を目的として掲げている。この目的を達成するために以下の三つの教育方針を定めます。

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人文科学研究科教育学専攻は、修士課程において以下の学位授与方針にもとづき、所定の単位を修得し、修士論文または課題研究報告書の審査および最終試験に合格した者に、修士（教育学）の学位を与えます。

1. 「人間の発達と形成」に関して誕生から成熟と死に至る時間的広がりや家庭・学校・社会という空間的広がりの中で理解する高度で専門的な知識と能力を有すること。
2. 「人間の発達と形成」をめぐる現実的諸問題とその解決を志向する臨床的視点を有すること。
3. 「人間の発達と形成」をめぐる諸問題を対象化し、その問題に関する調査・研究を自律的に遂行し、その成果を体系的言説にまとめ上げていく能力を有すること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人文科学研究科教育学専攻は上に定める学位授与方針に基づき教育課程の編成方針を以下のように定めます。

1. 「人間の発達と形成」に関して誕生から成熟と死に至る時間的広がりや家庭・学校・社会という空間的広がりの中で教授する多様で系統的な授業科目を開設する。
2. 「人間の発達と形成」に関する現実的諸問題とその解決を志向する臨床的視点に立った授業科目を開設する。
3. 教育上有益と認められる場合は他専攻・他研究科の授業の履修も一定範囲内で可能とする開放的な教育課程として編成する。
4. 「人間の発達と形成」をめぐる諸問題に関する調査・研究を自律的に遂行し、その成果を体系的言説にまとめ上げていく能力を養成するために充実した個別的研究指導体制を用意する。
5. 学生個々の関心や進路に応じた学習を可能とするコース制を採用し、修士論文コースと課題研究コースを設置する。
6. 社会人に開かれた学習システムを可能とするために昼夜開講制を採用する。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人文科学研究科教育学専攻は、学生の受け入れ方針を以下のように定め、国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学力を有し、「人間の発達と形成」に関する基礎的知識と学ぶ意欲を有する人
- (2) 「人間の発達と形成」をめぐる現実的諸問題とその解決を志向する実践的関心と意欲を有する人
- (3) 「人間の発達と形成」をめぐる諸問題に関する調査・研究を自律的に行い、その成果を体系的言説にまとめ上げていくことに強い関心と意欲を有する人
- (4) 「人間の発達と形成」に関わる高度専門的職業人として社会貢献する意欲を有する人

2. 入学試験制度と評価

教育学専攻では、下記の入学試験制度ごとに、上記の事項について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します

3. 入学後に涵養する能力

教育学専攻修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるとおり、「人間の発達と形成」をめぐる現実的諸問題に関する高度な知識と能力を涵養し、それら諸問題の関連分野において専門的研究や専門的職業に携わる人材を養成します。

英語英文学専攻 3つのポリシー (2024年度生用)

人文科学研究科英文学専攻は、英文学・米文学・英語学・応用言語学の諸分野における専門的研究者を養成するとともに、高度な学問的、文学的および語学的教養を身につけた人材を養成することを目的として掲げています。この目的を達成するために、次の三つの方針を定めて教育研究活動を進めていきます。

I. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程

人文科学研究科英文学専攻は、博士前期課程においては以下の学位授与方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、修士論文または課題研究報告書の審査および最終試験に合格した場合に、修士(文学)の学位を与えます。

1. 英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野で自立した研究者を目指して博士後期課程に進学できる能力の修得
2. 英文学・米文学・英語学・応用言語学に関する高度の専門性を有する職業に必要な能力の修得
3. 国際語としての英語による高いコミュニケーション能力の修得
4. 英文学・米文学・英語学・応用言語学に関する幅広い教養と、論理的、複眼的な思考能力の修得

博士後期課程

人文科学研究科英文学専攻は、博士後期課程においては以下の学位授与方針にもとづき、修了に必要な単位を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格した場合に、博士(文学)の学位を与えます。

1. 英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野において、研究者として自立した研究を遂行できる能力の修得
2. 高度の専門的職業に必要な知識と研究能力の修得
3. 異文化理解と国際的な視野をもって、時代の諸問題に対応し、その解決に貢献しうる能力の修得

II. 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程

人文科学研究科英文学専攻は、本専攻の定める修士の学位授与の方針を実現するために、博士前期課程における教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 英文学・米文学・英語学・応用言語学に関する体系的な授業科目を設置するとともに、

きめ細かな研究指導体制を構築する。

2. 上記4分野の背景的知識の獲得および国際的視野の養成のため英米の文化研究の科目を設置する。
3. さまざまな学習者に対応するために、修士論文コースに加えて課題研究コースを設置する。

博士後期課程

人文科学研究科英文学専攻は、本専攻の定める博士の学位授与の方針を実現するために、博士後期課程における教育課程の編成方針を次の通り定めます。

1. 英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野において、博士論文の作成にむけて高度な専門知識を深化・体系化することができるよう、きめ細かで一貫した研究指導体制を構築する。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

人文科学研究科英文学専攻は、博士前期課程における学生の受け入れ方針を以下の通り定め、広く国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学力を有し、英文学・米文学・英語学・応用言語学に深い関心を持ち、自主的に研究する意欲のある人
- (2) 英文学・米文学・英語学・応用言語学に関する高度の教養と学問的素養を身につけ、専門的な職業人として活躍しようとする人
- (3) 英文学・米文学・英語学・応用言語学に関する幅広い教養と、論理的、複眼的な思考能力を身につけ、地域社会の一員として活動しようとする人

2. 入学試験制度と評価

博士前期課程では、下記の入学試験制度ごとに、上記の事項について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、

総合的に評価します。

- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

3. 入学後に涵養する能力

英文学専攻博士前期課程の入学者に対し、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じて、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野で、自立した研究者を目指して博士後期課程に進学できる能力、高度の専門性を要する職業に必要な能力、また英語による高いコミュニケーション能力、幅広い教養、論理的・複眼的な思考能力を涵養する教育を実施します。

博士後期課程

人文科学研究科英文学専攻は、博士後期課程における学生の受け入れ方針を以下の通り定め、広く国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野において、研究者として自主的に研究課題を探求し高度に専門的な論述にまとめる意欲をもつ人
- (2) 英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野において、高度に専門的な業務に従事して研究活動を行う意欲をもつ人

2. 入学試験制度と評価

博士後期課程では、上記の知識・能力および資質等を有する学生を選抜するために(1) 一般入学試験、(2) 外国人留学生入学試験を実施します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

3. 入学後に涵養する能力

英文学専攻博士後期課程の入学者に対し、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じて、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、英文学・米文学・英語学・応用言語学の分野で、研究者として自立した研究を遂行できる能力、高度の専門的職業に必要な知識と研究能力、異文化理解と国際的な視野をもって、時代の諸問題に対応し、その解決に貢献しうる能力を涵養する教育を実施します。